

「天気」投稿案内

天気編集委員会では、会員の多様な要望に応えるために、いろいろな欄を設けて紙面の充実を図ってきました。今回、投稿規定を実状にそって改訂しました（昭和63年7月27日第24期・第25期合同理事会承認）が、紙面の制約と運用の便宜を考えて、細部について「天気投稿案内」を毎年1回、掲載して、天気投稿規定を補足し、投稿の便宜に供することにしました。（天気編集委員会）

1. 投稿規定第1項に本誌の内容の主な分類を挙げてありますが、現在、本誌に掲載されている主な欄の説明を後にまとめてあります。
2. 投稿原稿は、これまで横書き原稿用紙を使用するようになっていますが、ワープロが普及してきたので、白紙にワープロで浄書した横書き原稿でもよいことにします。ただし読みやすいように行間をあけて、1枚に、25字×20行となるよう打って下さい。
3. 規定の頁数を越えた場合はとくに編集委員会が事前に了承している場合を除き、原則として印刷頁1頁あたり10,000円の実費を請求します。
4. コンピューターのアウトプットの図のプリントは、そのままでは図版の版下に使えないものが大部分です。
原則として黒インクまたは墨でトレースして下さい。
5. 「天気」の発行期日を守るために、原稿は発行日の2カ月前に印刷所に入稿しなければなりません。編集委員会で原稿の整理をする時間がその前に少なくとも1週間は必要です。印刷所との契約で、ごく短いお知らせなどの記事に限って、発行前月の月末まで受け付けます。

論文：原則として未発表の原著論文に限ります。内容は気象に関係がある報文で、現象についての新しい知見やその説明・理論のほか、関連分野への気象学の応用や気象技術に関するもの、地域的な珍しい現象の報告など幅広いものを含みます。長さは図表を含めて印刷8頁以内としますので、記述は冗長にわたらぬよう、なるべく簡潔に要領よくまとめて下さい。

短報：珍しい事象の単なる報告、未完成であるが、速報を要する研究成果の概要、会員の目に触れにくい他雑誌に投稿した論文の要約等のほか、比較的簡単な小論文を含みます。長さは図表を含め、印刷2頁以内とします。

解説：「解説」とは、国語辞典によると『わかりやすく説明すること』とあります。ところで、天気の「解説」は難しいので、もっとやさしく、わかりやすいものにして欲しいとの要望をよく耳にします。確かに本欄に掲載されるものには、2、3の事項について詳しく説明したものや、ある研究分野の歴史的発展過程を紹介したもの、あるいは特定の分野の総合報告的なものや事例解析の紹介など、様々なものがあります。他の分野の方々にも十分に理解できるようにと、著者にはお願いしてありますが、読者の方々に誤解を与えないようにとの配慮から、厳密に論を進めて、『難解なもの』という印象を与えてしまった場合も少なくないと思われます。

今後も冒頭に述べた『わかりやすく』をモットーに、幅広い気象学の分野をくまなくご紹介するつもりです。取り上げるテーマも、会員の方々の要望に出来るだけ沿いたいと考えておりますので、テーマについて希望がございましたらどしどし編集委員会にお寄せ下さい。ご協力をお願いします。

気象談話室：『教育の原点は、単なる知識の伝達ではなく、時間をかけ、努力を重ねた先輩の方々の経験を共有することにある』という考え方にもとづき、永年にわたって気象学の研究に携わってこられた方々の経験を披露していただく、気楽に読める解説あるいは随筆欄です。気象学的なものの見方、考え方についての示唆に富んだ話、一般の普及書や教科書には入りきらないような研究上の裏話なども盛り込んだ、各専門分野に置けるベテラン研究者の経験を多くの会員が共有できる場として期待されています。原稿の長さは400字詰め原稿用紙で20～30枚程度。専門的な用語については、本文または付録で解説をつけるなど、わかりやすいものとします。

シンポジウム：名前のとおり、国内・国外で開催されたシンポジウムの報告を扱う欄です。これまでは、シンポジウムの発表内容に立入ったものから参加体験記までいろいろな角度からの報告が記事になっています。特

に、国外でのシンポジウムは、国外の最新の研究情勢を知る上で貴重な情報源のひとつと思われますので、参加された方の積極的な投稿をお願いいたします。

会員の広場：会員の広場は、読者の学会、学会誌に対する意見発表、相互の情報交換の欄です。読者自身が作る欄ですので、会員からの自由投稿で、原則としてそのまま掲載します。情報交換のために特集企画を組むこともありますので、その場合には、原稿の執筆をお願いすることがあります。

従来、まとまった長い意見は「論壇」に掲載されましたが、今後は「会員の広場」に一本化することになりました。しかし、数行程度の短い意見や提案も、もろさず掲載致しますので、特に若い方、多忙な方も、気楽に御意見をお寄せ下さい。新聞の投書欄のような、活発な意見交換の場になるように会員諸氏の御協力をお願い致します。

支部だより：支部だよりとは、地区編集委員等より投稿される原稿を、ほぼそのまま掲載しています。現在は、発表内容の簡単な紹介を含めた地区研究会の報告の投稿が多いのですが、内容その他に特に制限していませんので、支部による特色がでています。研究会等の開催の予告等は、開催の前に掲載されるようにしていますので、御協力下さい。なお、投稿原稿の長さは、1頁(400字づめの原稿用紙4枚程度)です。

質疑応答欄：読者から寄せられた質問に対し、編集委員会が会員の中から適当な方に依頼して答えていただくものです。気象と関係したものならどんな質問でも受け付けます。

月例会欄：年に数回、定期的に開かれている月例会について、そのコンピナーの方から投稿していただいている欄です。最近、「南極圏の気象」、「長期予報と大気大循環」が掲載されています。

用語解説欄：近い将来、再スタートする予定の欄。最近盛んに行われている研究計画などを含め、気象関係の最近話題の用語、新語について、1/2から1頁程度の簡単な説明をするもの。読者からも希望の用語を受け付け、編集委員から会員の方に説明文をお願いする予定です。

NEWS：NEWSは、編集部で依頼して掲載しているものと、主として学会員からの投稿原稿をもとに掲載しているものがあります。前者には、気象庁長期予報課の学会員に原稿を依頼している「月平均500mb天気図」と「世界の天候」がありますが、これは、2月分が4月

号に掲載されるなど、速報性に富んだものとなっています。

また、学会員からの投稿原稿は、できるだけ数多く、すみやかに取り上げるようにしていますが、主観が強く入っていて論壇のほうが適切と思われるものや、もう少し補えば短報となるとと思われるものは、投稿者と相談の上、少し手を加えて、別の形態でお願いすることがあります。なお、投稿原稿の長さは、1頁(400字づめの原稿用紙4枚程度)以内です。

WCPの窓：“GARPの窓”を引継いで、第28巻(1981年)から始まったコーナーで、WCPに関する国内・国外の委員会・研究集会の報告がこれまでの主な記事でした。WCPは、会員がその成功に向けて活躍すべき重要な柱の一つです。WCPに関するニュース、意見交換などの投稿も歓迎しています。

研究機関めぐり：研究機関の素顔は意外と知られていないのが実状のようであります。さらに、最近の気象学の発展とあいまって、研究機関の活動は多様化、専門化の道をたどっています。本欄の目的は、このような研究機関の活動状況を会員に紹介することにあります。内容は研究機関のユニークな点、研究業績の中で特筆すべきハイライト、将来どのような研究部門をのぼしたいか、研究機関への入り方(採用方法)などで、研究を志す人たちにも参考となるものです。執筆にあたっては事務的・総花的な紹介ではなく、執筆者個人の目でみた紹介をお願いしました。本シリーズは極地研、低温研の順でスタートし、順次、全国の研究機関をまわる予定です。

素顔'88：この素顔シリーズは、日本国内の学会では会えない気象学の研究者の素顔を紹介しようとするものです。各大学・研究所でこのような研究者の訪問を受けた時には、是非ともinterviewを試みて下さい。普通ではうかがい知れない素顔を見つけれられることでしょう。

情報File：“天気を情報紙にしよう”というのが編集部の相言葉です。皆さんが知っているちょっとした情報は、ひょっとすると宝の山の入口かも知れません。皆さんの持っているそれぞれの情報を会員全員のものにしましょう。

最近の研究から：会員の皆さん、毎日、研究に仕事に多忙のことと思います。ところで、何か面白いものを見つけた時、誰かに話してみたいと決意にかられたことはありませんか？学会発表や論文にする前に、うきうきした気分で話をしてみたいと思ったことはありませんか？最近の研究からは、こんな会員の気分を満足する

ために設立しました。“軽やかに、研究の話をしましょう”/

本だな：本欄は、特定の書評担当者に依頼しているわけではなく、会員の皆様の自由な投稿（自薦、他薦を問いません）が基本です。また、これとは別に、編集委員会（学会）あてに書評依頼または寄贈があった場合、委員会で適当と判断したものについて適任と思われる方に依頼することがあります。

採用するにあたっては、担当委員の判断で若干の加筆、修正をお願いすることもあります。なお、おむね、そのままを掲載しています。「天気」に不相当との判断は、編集委員会で行います。

大都市はともかく、地方では新刊の入手が難しい状況もあるようです。ひきつづき積極的な投稿をお願いします。また、最近では調査、研究に個人レベルでパソコン等情報処理機器を使うことも多くなっています。会員に役立つこの方面の本の紹介も歓迎します。なお、原稿の長さは、投稿規定にあるように1頁以内（400字づめの原稿用紙4枚程度）をお願いします。

海外だより：外国滞在、外国出張時の際の印象・雑感などを肩の凝らない形式で寄稿していただいています。長さは、投稿規定にあるように（その他の扱いです）1頁以内です。

大部分の会員は、海外の研究環境などを容易に知り得ない状況にあります。フレッシュな情報の提供をお願いします。

カラーページ：「天気」では、年に2回程度、各1頁面のカラーページを設けています。

投稿原稿（論文・短報を除く）のうち、投稿される方がとくにカラーを希望される場合に、編集委員会で検討し、掲載することにしていきます。したがって、必ずしもカラーという御希望に添えない場合や、カラーとしての掲載時期が遅れる場合があります。（この場合、担当委員が御相談の上、決定します）。

また、どうしてもカラーページを希望される場合、実費（63,000円+写真1点につき3,000円）を負担してい

ただくこととなります。

なお、論文・短報については、別途カラーページチャージをお願いしています。

*写真はネガ、ポジ、プリントでお願いします。

卒論関係：気象学・気候学・大気物理学等に関する大学院博士論文、修士論文および大学卒業論文紹介について

若年研究者の気象学会におけるデビューは、春・秋の学会講演会での初めての発表がそれに当たるのではないのでしょうか。とは言え必ずしもすべての新人が公式戦に出場できるものではありませんし、新入会員欄は、メンバー表程度のものです。

一方、気象学、気候学、大気物理学等の気象学界の関連する大気科学の現在の動向は、極めて多岐にわたるとともに、大学等で研究を行っている会員の所属も様々な学部・学科に亘っています。

このような背景から、本欄は新人紹介および大学での研究分野の紹介として機能させようと考えております。

<募集要領>

1. 会員よりの自発的投稿とします。
2. 多数の対象会員または紹介対象者が、同一の学科、教室等にいる場合は、できるだけ一括してお願いします。
3. 記入項目
 - (1) 大学名 (2) 学部または研究科名 (3) 課程（大学院の場合のみ、修士、*博士、*いわゆる論文博士はその旨） (4) 論文テーマ (5) 掲載公刊雑誌名、巻号等
4. 対象卒業年次

昭和60年度、61年度、62年度
（今後、毎年、継続します）
5. 締切

毎年5月9日とします

本欄の主旨を御理解いただき、御協力をお願い致します。

掲載号 配布日から、1ヶ月+10日後